

公園でみられるモクセイの仲間たち

キンモクセイより香りは控えめ
ウスギモクセイ



花期：9～10月
花は淡い黄色。キンモクセイより早く咲く。

トゲトゲの葉が特徴的
ヒイラギモクセイ



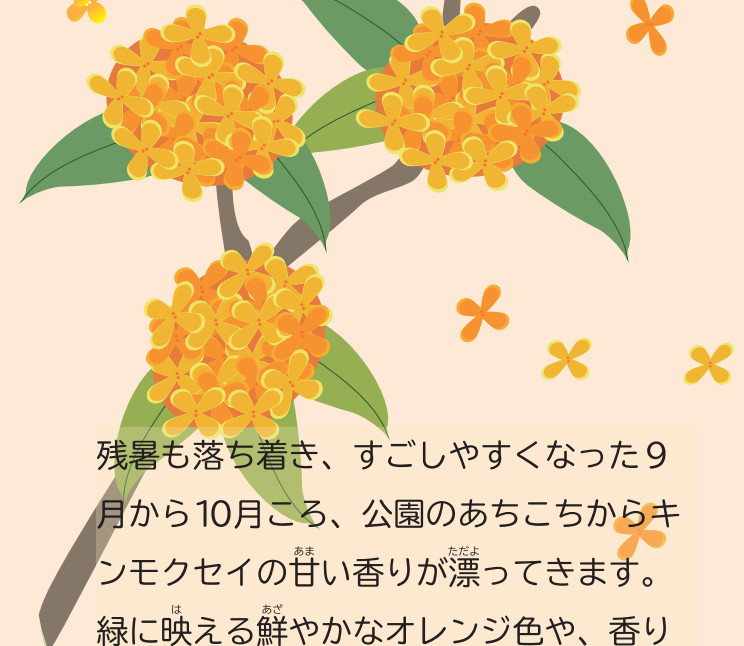
花期：10～11月
花は白色で大ぶり、キンモクセイのみごろが終わるころに咲く。

モクセイさんぽスポット

花のみごろは公園公式ホームページでお知らせしています。ぜひご覧ください。



花と香りの モクセイさんぽ



残暑も落ち着き、すごしやすくなった9月から10月ごろ、公園のあちこちからキンモクセイの甘い香りが漂ってきます。緑に映える鮮やかなオレンジ色や、香りを感じながらさんぽしてみませんか？

公園からのおねがい

- ・園内の生きものは採取したり、持ち帰らないようにしましょう。
- ・花畑や花壇、柵で囲った場所は入らずに観察しましょう。
- ・スズメバチに出会ったら、立ち去るまで待ちましょう。



キンモクセイってどんな植物？

キンモクセイの甘い花の香りは、街なかにも秋を感じさせてくれます。

おさんぽしながら観察したら公園でキンモクセイの知らなかった一面に出合えるかもしれません。

生きものとしてのキンモクセイ

甘い香りはくる昆虫を限定するため？

植物は香りを出して、花粉を運んでくれる昆虫を集めます。しかし、キンモクセイの香りには、モンシロチョウが嫌う成分が含まれていることがわかっています。日本や中国でキンモクセイを訪れる昆虫を調べた研究では、チョウの仲間は訪れず、ハエやハチの仲間が訪れるという結果があります。まだ明らかになっていないことが多いですが、花粉を運んでくれる昆虫だけを香りで集めているのではないかとされています。



開花と気温の関係

夏から秋の気温は、キンモクセイの開花に影響を与えていると言われています。外気温より暑い環境でキンモクセイを育てる実験から、暑いと開花の開始が遅れ、長期間開花するようになり、2～3度咲きすることがわかっています。



オスの株しかない？

キンモクセイは雌雄異株という「オスとメスに株が分かれている植物」です。両方が揃わないと実ができません。しかし、日本で植えられているのはすべてオス株です。キンモクセイは原産地の中国から江戸時代に渡来しました。そのとき、花のつきがいいオス株だけが持ちこまれたそうです。持ちこんだ株を挿し木で増やしてきたため、日本にある木はオス株だけになりました。

出典：田中修、丹治邦和『かくわしき植物たちの秘密 香りとヒトの科学』山と溪谷社、2021年、岩崎哲也『ポケット図鑑 都市の樹木433』文一総合出版、2021年、中島敦司・山本将功・大南真緒・仲里長浩・廣岡ありさ『夏季から秋季にかけての気温がキンモクセイの開花に及ぼす影響』『日本緑化学会誌』2011年、37(1)、p26-31 監修 増田和夫『自分で採れる薬になる植物図鑑』柏書房、2006年、大村尚「総説 チョウ成虫の採餌行動と嗅覚情報物質」『比較生理生化学』2006年、23(3) p134-142

くらしのなかで利用される花

ダイエット効果のある香り

花の香りの効果を調べる研究で、キンモクセイの花の香りを嗅ぎながら生活してもらった5人と、嗅いでいない5人の12日後の体重を測った事例があります。香りを嗅いでいた5人は他の5人と比べて満腹感が高く、体重の減少が大きいことがわかりました。また、研究結果から、キンモクセイの香りに食欲抑制への影響がみられ、ダイエットへの利用が期待されています。



香水やアロマオイルとしても親しまれています

生薬にも使われる花

花は胃炎、低血圧、不眠症の生薬として使用されています。生薬とは、動植物や鉱物を使った天然由来の医薬品のことです。中には乾燥させた花を緑茶に加えたり、焼酎に漬け、キンモクセイ酒などとして楽しむ人もいます。